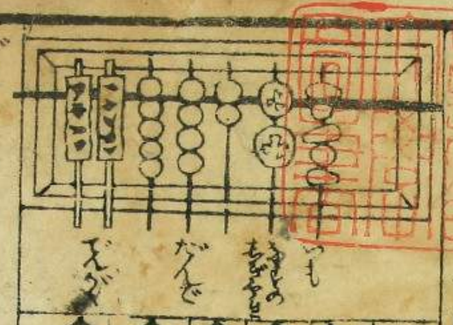
式亭三馬著

へ 13
2728

へ13
2728

道化節用小野篁諚字盡



腕算用早割乃法

▲竿ゞ五引
▲四ゞ八さ
▲三ゝ九ゞ九
▲二ゝ五ゞ五ゝ
▲三五ゞ十五

利錢乃法

故
横山有業氏
昭和四年寄贈

ヘ 13
號 2728

おゝつまかひとつきさん束がどうふつと
くろつくゝ[illegible]がどうつくおりゝ
ひくふりかれね時ゝ
けん二でぐ三四五六
七八九十と
けんおろゝ

法と同
二て入つゞその二個つゝあて[illegible]
五町ふまりて三段の[illegible]
くゝある
ふとのうち二一個僕でまそれ[illegible]
[illegible]ちんどちンチ。二ことゝ[illegible]
の[illegible]て。一二三が二あり[illegible]
ひいて[illegible]をとる。
[illegible]のなる六落目とある
二人の割合ぞろと[illegible]
[illegible]二丁目[illegible]ハテ二
[illegible]割過

おれ子さん

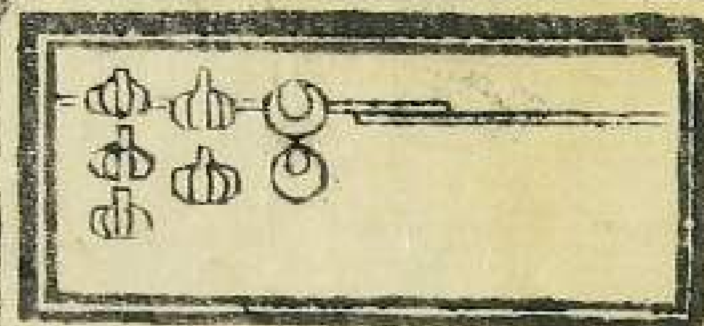
おれ子さんの[illegible]と[illegible]
[illegible]

おれ子さんまづちやわんにおちるてくちあり。それ
[illegible]の[illegible]で呑むでべくのそでにちいく猪口でのむ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
がや[illegible]何升何合のむやら[illegible]
定がよりつゝね其の時[illegible]同じくおれ出しそく
又[illegible]茶碗[illegible]迄呑む[illegible]おれ子ざん[illegible]

かけくまれの算ハ茶碗[illegible]あつて附せき
あんでさちくんとゝるもさよ

犬觀乃割

吐口連小同物[illegible]世。
[illegible]
[illegible]時ハ
典[illegible]法[illegible]の賃
物をひとりとり時ハ
○印ま[illegible]一とよ



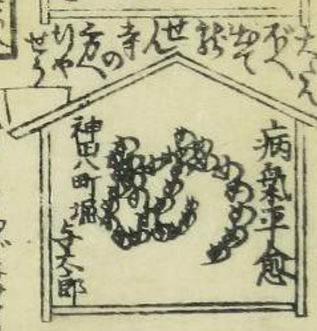
[illegible]
△△
[illegible]
○[illegible]三升山ハ[illegible]
○大[illegible]
○大[illegible]乃[illegible]

あるひハ[illegible]の三拾三間[illegible]の数が
三万三千三百三拾三体[illegible]
山王の[illegible]
三万三千三百三十三[illegible]
○[illegible]
[illegible]

銀けひ早割

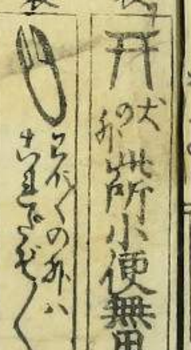
銀七匁五分[illegible]
湯が千文[illegible]十文
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]一向[illegible]

○看板類乃文字書法

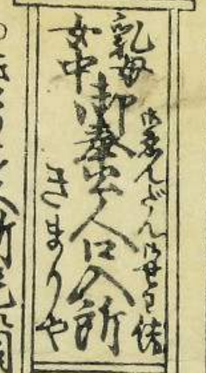


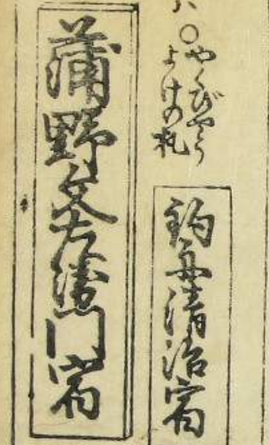
○紙短冊扇徳利

表



裏





○絵馬并に聯の見立

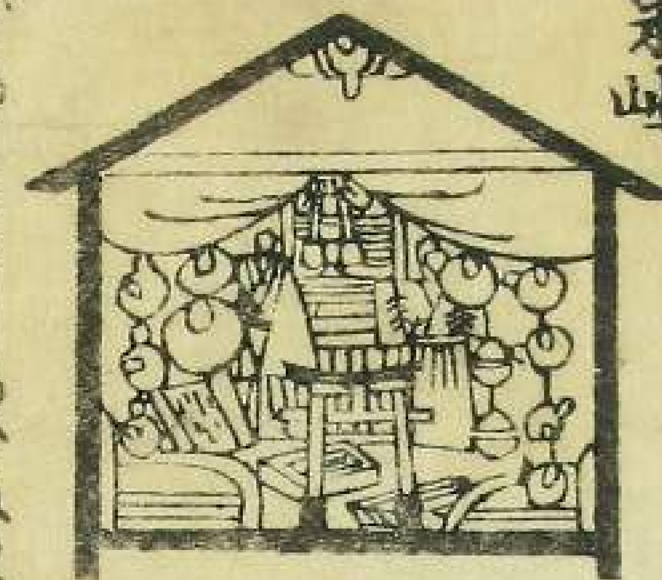
流行来物は勇物の利

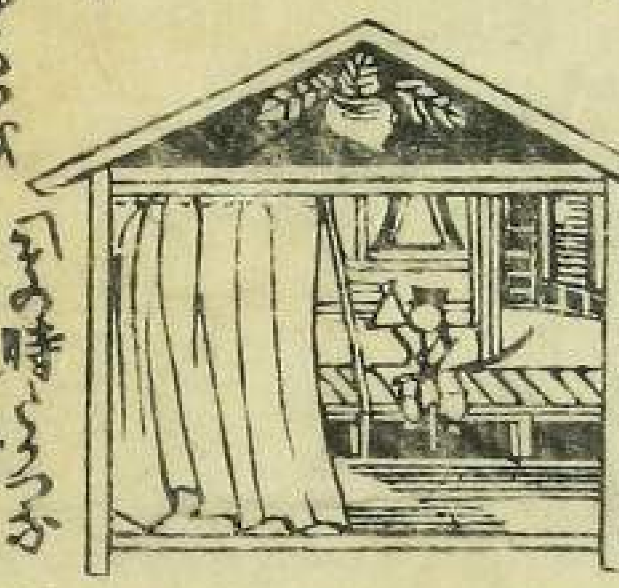
彩物ニ仕失物存やる孫

火用心

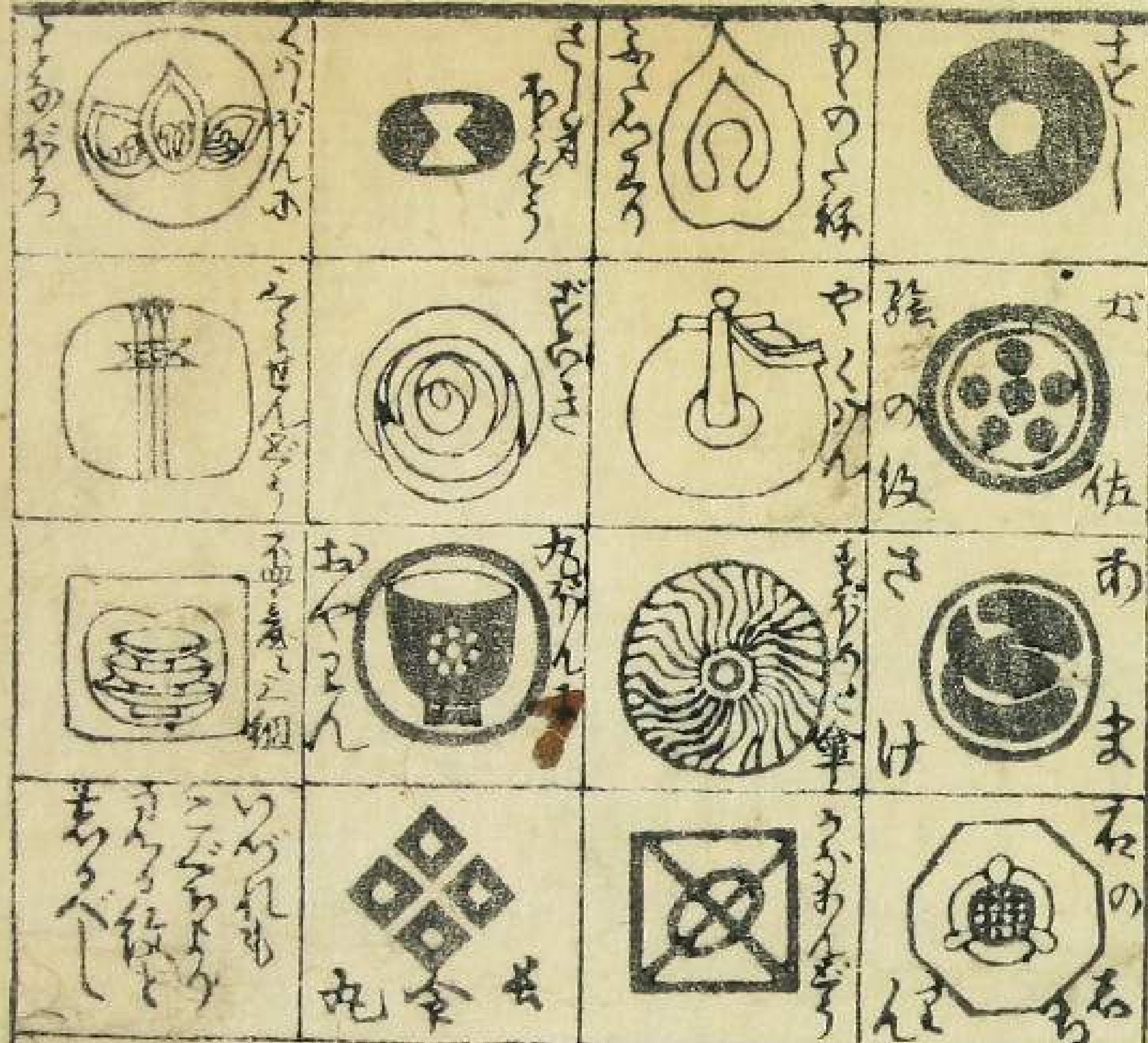
ろじ四時限

粟嶋





紋づくし



○年中通用文章

春禄之寿駒杯を羨見てさへ
家内は繁昌…
当年中は…一枚并て
名札へ…
遊びがるく扇箱…錫の如く

若松万載 三河屋 其外

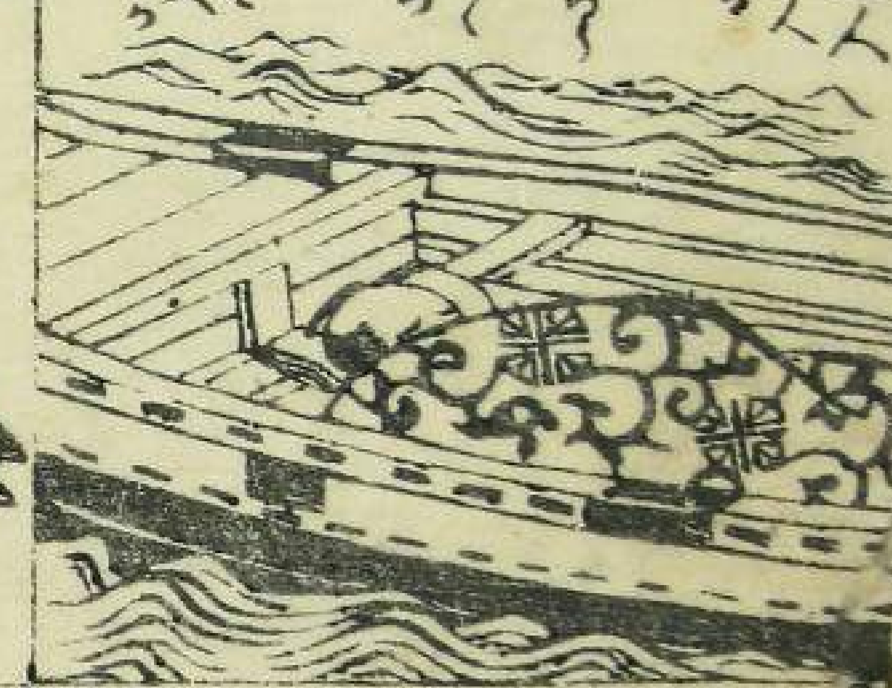
その他の文章 畧之

大篆小篆似字畫

「巳の字。」
「上の字。」
「毛の字。」枝さんでも
「累の字。」くるい
「丙の字。」犬まづ　ちんの　うしろ向
「皇の字。」樂の
「呂の字。」
「鼎の字。」あんぷ
「呂の字。」師丈
「丰の字。」たうぞうちん
「朋の字。」師乃えさ
「全の字。」
「糸の字。」ひさま
「高の字。」
「用の字。」
「西の字。」
「丑の字。」乃　あ縁　さ久
「四の字。」
「六の字。」こさびと　谷　四
「天の字。」
「言の字。」
「貝の字。」
「山の字。」
「私の字。」
「目の字。」
「玉の字。」
「丈の字。」
「貝の字。」
「命の字。」
「孟の字。」
「化の字。」
「辭の字。」上下
「丈の字。」
「命の字。」
「況の字。」仁和寺の

無禮不骨方

○猪牙舟の中へ八二人
[illegible]



○盃のとりやう
[illegible]
カツチリ
[illegible]

○肴はさむ中へ
[illegible]

○飯食中へ
[illegible]

○らうかでの[illegible]
[illegible]

○あいさつ仕やう
[illegible]

○障子の出入仕様
[illegible]

○餅食ひ中へ
[illegible]

将棋指方並詰物

盤面九の井桁九の九面がよりて九面ともいふ未詳

王 向ふ見ずにふつきぶるもへくまで月のくひあるのかくいはれし

女房 あるじにふたりのひとり女十男とよくつくふべし わるくふ

番頭 内紙まわり駒ゆえ大へん役わるくしのそもあるといまわ

歩代 金銀をそなへ自とあるくらけば大きくうちばしんぶんがしてまもり駒あるし

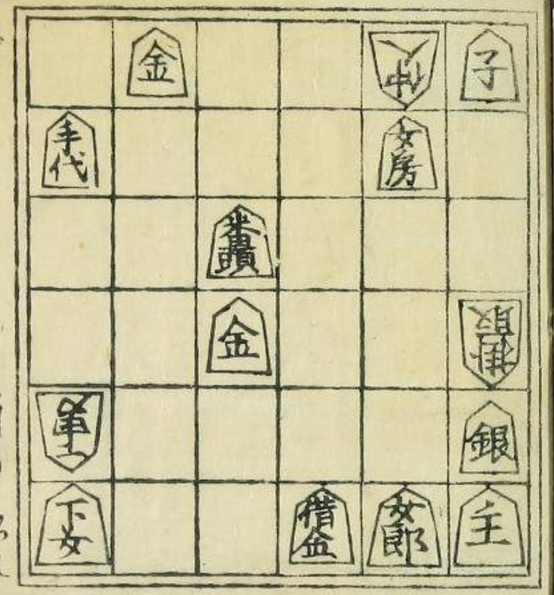
金 駒の内ゆえ貴い大ぶんあるうち金銀

銀 駒の内ゆえ貴い大ぶんあるうち金銀

下女 女房の駒ゆえ男もちろひとくるくべし あひだ駒ゆえ下男とし向よ大きくえんあり

○鼻紙もちて
もくまとうて
なのゆびは頭張り
てこ武文
さるめ
いけれあり金
くるめふて
らとうけ
べー
人のおろけ
あ人のあ向ひて
ツとはくもあ紙ひろけくるこく
オインくとありかさあるとうく

○象棋ちいろくわ角ゆとは。老人の一ふ
ぶさと紙後生氣といひ又はきく人の媚
故ゆわもぶて物まへかさうくぶちう
とつまうふ陵ふあびぶ堂紙男て
○ぶうまうぶ。かうせくぶ
ハテ駒て物ぶ何ぶ将棋ふの人



王 高ふて角駒ふく 歩代の老人ふく金銀
とまうひ捨ふく 金 銀 向ふの方ふて
二歩ふ五面とあるどよりやあくゆ
銀金と金郎とふ家蓋書とくふ
ふまうふとあふと 桂馬 光ふ生きの大
ふんて追ふ。ふふ物まへふ生きの大世
ぶふびく物まくふんふふ此金馬ゆ内
掃ひの銀と牛ふ野蓋ふふ 番頭ふ
を歩代も金をふふふふふ
ぶふ一向ふのどふふふ
家蓋ひふふ 仲人ふふ
ふふ子ふふふふふ
ふ王の馬ひふふふふふ
ふふ 下女もふふ馬ゆ向の 歩代
ふふふふふふふふふふ
ふふふ物ふ 銀金と 金郎
ふひふふふふふふふふ

文字ハ陰陽が生じて万象をあらはし人間日用の急務なり小野篁歌字尽と云ふの
偽作ありてより顔向を面白がり巳已己巳樂楽樂のごとき誤説さへ多くなれ
却て童蒙ハ小毒なれど今弟を謎字尽いかなれバいろいろ文字と擬め
されバ毒ゆゑ毒あればむずかしく覚え見ならはぬ事も多く恥子がありし
菩薩命がたぶれて和らげ嫁いぢる猫また婆が願解きよろしく坊主
出家と食淡し笑って三百損をしるしてわずらのくをがほなそしわれ
欲する而已

小野篤を虚八百余代
遥く天皇乃御字
小野侍従といふ柱家
野乃中ふある名がある
人わらしが成附竹林の
あふ一人の童子立あらそ
乳母が抱き若よく思ひの外
屁が放る事がんくよ放つ
あればびつくり驚かず
ねをぴんぴる童子なれと
家ふ中宮ひいきが元来鼓の
中ゆゑ屁が放し出家
弥治郎とぞ名づけける
虚字尽と是よう初
それより彼童になって
うまつき弥治郎やぶの中
で屁が擬さるを此童子
後ますます子とそだてたる
名を改て小野篁となり
此虚字尽が製作ありしとかや

小野篁武門芝居
ゆしてく遊び居らうしが
あ〜乃大臣おのの
とんぴく桂拾王
涙でも乗せも各天狗
傳の[illegible]度ゆて子の空
八つ河出くぬ八河
遠く達ご者ら
[illegible]ぐしあられば
[illegible]あ
乃[illegible]河をでんもせけ

○子子子子子も潮来河雛も潮ゆて
子子すどやすすどやハちと古の奥

兎角逢ふ・いろはの来由

野篁天皇乃御字。女房大事ゆて
ゆて女房ごろうかあひ〜る男あり。ゆ
の儀と玉ゆの四角。われ世ゆ月ゆ
ちうんごゆのとゆ〜く色里ゆ〜ゆ。同
友ふ・ゆ〜くゆい宝百ゆ。ゆ〜くゆい
ゆちごゆ宝方ゆ宝百ゆ。ゆ〜ゆ
大ゆと行り。故郷ゆいゆ〜ゆ。後金
ゆ〜ふ遠敷墨種四若八若ゆ
ゆ〜ゆの文ゆ〜ゆ。四十七字ゆ
ゆ別ゆ。ゆ〜ゆ
ゆ〜ゆ。ゆ〜ゆ
ゆ〜ゆ。後金ゆ。後金ゆ

いろは新字

四十七字とゆりくのとそぐさらぢつなぬ。君まてしと浮世家まれ。

諸方無性 いろとさけれわ。みなまよひやす。

亀酒皆迷安

註曰 まやくれ孔ゆさをつぬるゆ性まさあも八まとのもおそとでちゆいろまさそゆハレまを迷ゆとし

身性滅法 ちりうごくいめ。かねのほしきは。

散動夢金欲

注こ曰 亀と欲といろのあの酒のゆいろいちどい家くいもおれかくごもちりくあるそとゆめのくあまめぐ世のゆこいふのいはめぢるあいのぢやもりあぐくいくるあるめいごあふまいらぐん金欲やりいぐるくえく程欲やりがくいハ大切まるゆまをう且一ごらて人ぐるそこらぐくいめのらくるゆ紙うんでつれるくるゆもふえるるのぢや人まくゆれ。ハそいつくいのイはおえれ人ゆのくいるまちう欲しまぐるゆるくまちんちう

惣別不粋 たれもふいるぐう。つらね。

誰充滿辛氣

不食負樂 れへぬをあるえてせむ。

寂滅敢而爲

かまど詞大概

天 ハ てんぢく
地 ハ ちぢと
南天 ハ なんてん
古文字 ハ 唐物
亀 ハ たまて
お形 ハ べ形
ハ らんび
ハ ろうの
珊瑚珠 ハ さんごど
老人 ハ おろうじん

小野篁繻子蓋

戯作者 式亭三馬戯著
門人 樂亭馬笑校

春夏秋冬 春うくと夏ハげんきで秋ふさぐと冬ハいろこて暮ハまるけき

錺金ハ光りまもく婆ハ娘ふさうもち。母ハそそう娘ふさうしふく

あめつちの蕭ハ あさだきさ
手裏剣ハ まりけん
くわんおんハ かんのん
大吹ゆと へへやさゆ
たてぶのむくしと 東西わくらし
雲泥万里 うんでんぐんでん
落るあら あぢらる
鶯(?)舞をもと かんせる
雪踏と せきだ
さミせんと ちやむせん
時ると こうんまぶ
夕 とよんべ
まんちむ生と もんもうま
十死一生と おひのんちよ
猿(?)ハ せなね
まよひ子ハ まいで
ひあがりハ あがり
磁石ハ ぎさやく
石ハ あやく
でんがくハ 目んがく又おでん
内ハ寧ハ こうらい
侃ハ へくあん
草履ハ せつ(?)
わんらハ わんぐん
刧ハ こうらい
思案ハ ちやん
病人ハ やまいね

〓 やぶそん 金の死ぬ やぶそん通ハ出さんと失ひ
〓 つうぞん
〓 むさとて
〓 おやぢら
〓 ふえる 金子と育 金のふゑ 金がよくぞる 貸ハおやぢ
〓 よくぞる
〓 おやぢつら
〓 ちぢぞう 金が借るがちぢぞう 返すでま 借金
〓 返す
〓 おやぢ
〓 の 父の金 息ハ一家
〓 つらふ
〓 そける
〓 そけ
〓 つけの 酒 つけのかせ
〓 のさまく
〓 酒 薦
〓 かんどう
〓 おそく 走るのみ
〓 るりびきあく
〓 男女手と手を ひき走る
〓 走る
〓 さつま
〓 口走る さらねつき
〓 封 どさどさめ
〓 潮走のち わおあ

無性印判盡
三文判
目藥
文錢
香爐灰
銅羅焼
天眼鏡
奴天恵
箱火鉢
炭の消壺
火山三吉

九十目ゞ太夫格子ハ六十目。守目ゞ三目ゞけめ

五歩くいびんのでまく八歩。ちくさん三歩。ちくさんぶんけ

二目八ゞ本ひき本刮ハてつ糸それおまつる

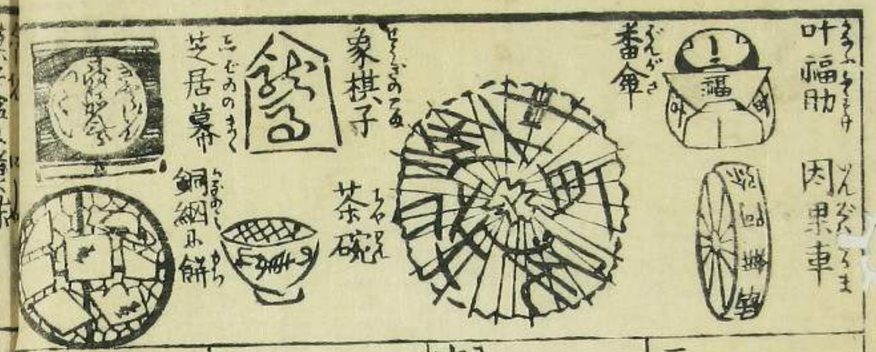
鍋ハげびゝ鉢ゞ

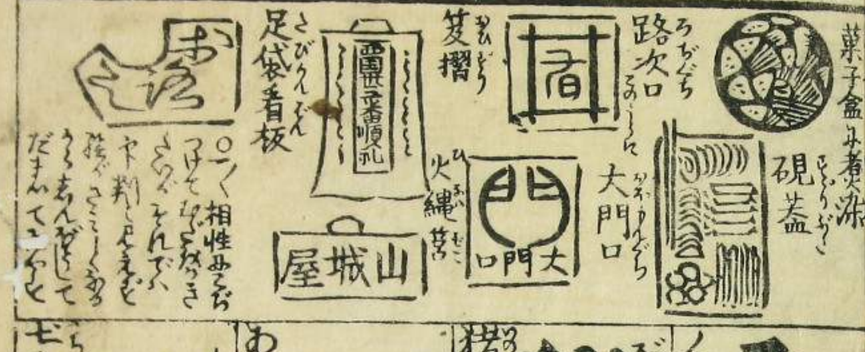
片ちんで車ハねゞうよゝゑちさ吳ハあげゞ逆いさゝ

口ゞのたんとゞちゞ八ゞてゝくゝ

人と人つきまゝくけんゝゝゝゝ中ゞちゞ

糸ハ糸ゑゝとめちゞ水いゝハゞ





三年ハちんぢゝ小さくつぶてさいのうゝ

碎石

申酉ぞんく鍋ハいろよりぶつぢゝゐ向ゐけゐひそ

酔鍋

酩酊

五大カいつまでぐさよいんまでもさんゝまゝ冨ゐ

五大力

富本

くらのさ

花屋門

見返

くゝとのさハ吾妻森ゐ一里塚ぇのさ嬉乃ゆうちゐのさ

吾妻森

一里塚

嬉森

猪ハぢんとゝぢゝ鹿ゝゝゐ木ゐくバ和中散ゐう

猪

鹿

和中散

あとのぐん先ゝのゝゝかぢびゐぐんくゝんぐちゝ鶯ゐさんざ

雁

雁鍋

鷺

モ舟ちゝねさ木舟ハろゝぎゐて笘舟たれざち千代かゝろ

堺

桷

桷

其の新天狗猜魏れハ洞ゟ出なるハ。艺語を毒する勘合の印ニてあるぞ。印判ある刀法ニ譜ニあるまゝ。人の名乃あづまる票押どんバ女ぶども古ざるべし。古篆あんぞいよのおかぢも。新篆からましき双六壺も里も大篆小篆大ゟり小ゟり。皆篆ぐれ印判と用ゆハ此印の祖押ちしめて飼石の印ハ祖紛刻せし是印のわるまゞら祖の字と極めのちがわかり吾朝ニて八篆字天王より始まるとぞ。文印形篆押あるとも以て其論判肉の付ようてふ似て重ホ手でまづ字を刻せんとぶつて篆く篆刻手ハあらぬのいれ門ゟめの田町ニさき

三

一地巻　太中

あかくあらへびとぐろ二重とくと太中とふくろいあつるなり

薮鷄　庄鷄

和薮内と云ふ荒あん将人と庄屋とあるきらねけんく

鉀　鉀　跸

申蟹らかうせん亀ハかうぐうで馬やの申ハてきてぐく

舌切　閂枡　大紳

舌切らそとぐめ助太刀とくと孫太雄申ハお供あんくさう

嚚　嚚　嚚

さらやまさらの皿わるあいかめるめおがすけ眼ハあろんちい

魁　魑　魁

口ハあげるのよ鬼の留守せんたく鬼外ハせんぶん

毎夏　金時　谷風

べけいをきんときをみらみせもおちさん是ハえんみつよいろ

木火土金水

木九ろふゞろの山乃ぶおてがあるいいと五水きうわれ

難字和解

和口七 とだな
大和の和七夕の七

屁屁 へつぽい
屁は對にへおく

肖日目 さけのみ
情が半分で情
何日目の日目
目が酒飲あり

寸宮 ちとつき
一寸の寸斎宮の宮

十六最 いざよう
十六夜の十六
皆がひろくる

弓 ぐりゑあ
物どがさうきあ

龜 つまりかめ
勇のつまり
客色をちいるもこんなものつまりたんとあるのハひやらかき着

𩿯 つまくね

龜 うつきかめ
ゆらの助

懐 こどもを
仲裏ハこどもを紅裏おくづくわ

𧟌 おくづくわ
浜 葵裏あら 由良三助之

𧟌 やまさん
まとふ うんちん

鰆 やきから
わらのの角ハやきから

䱗 おさまくね
おさまらぬ角

鯉 ゆうさかさ
てるつく
角突合に細工てれつく

巳 いとでふ
己 いおのれが
已 きこうふ
巳 こつち
とてもおのれが巳ハ巳己とあるからハ巳己巳せずとも(てもとやろうめ

𧊒 あわうらむし
あわうらむしが能をよ出のつく娘ハゆずん油でんぶう

𧌑 ゆずん

𧋍 ろうさう でんぶう

秀卿 むろそで
ひでさとハむろでぐうだらくで頼光さまハつちくもの

梶承 げぶらく

𧌑光 つちぐも

人馬 さんずうるじ
ひとくふ三人のりハくるまどんよ馬三足が三馬式亭

馬鷗 ちやくてん

謎字盡 うそじづくし 終

編冠構字尽

並ニ繪新

傍ハ本字ト付シ古文字ハ篆字ハ彙ハ
ヨクヨクト摸文字ハ彙ハ引テ四庫全書ノ序大江山
本ノ怪異図ハ正シ　ちゆ〜ハの化地蔵出ハ仮

芦　蒲

芦も蒲も共に
つくりものゝそれハ
又あぐらとも
サヽ蘭共

大つゝみ　小つゝみ

鼓　鼓

大つゝみハ大きく
小つゝみハ鼓より
字ハちいさき也

白　九十九

百の字ニ一字が
あるゆへ九十九ゝ

代

焼看
月代の代
あるゆへ菜の字

大さゝ

月

月代の月ハ大きく
ゆへ

五十夕

ゆへ

海邊

小倉付ハ日
傳の事

日 武士 晦日

大生壬 大和乃大壬生の生壬

酒造 臣 君

口

晶

子

仁

治

和

木

仏

子

君

仕 一

子孫 根

孤 若

支 支あければ

わ 畧

おんざ文字

おんざ牛乃 ぶん文字と

五性

木性

名頭字畫

戸 勇

編

おらんだもじは
蒙の初めより纔か
廿五文字を作る
よこ行に字なり
其ぞ三十六く中
其うち五十の外
まもんとありもの
あり余国の人は
つうじ可しとし又
仮名に此のごとく
ふろ紙なし作り
横にゆくも絶客
の法にまかす一ト
名にいくんど紋目と云

耳(よ)	喜(き)	留(る)	傳(で)
花(とゐ)	賀(が)	廬合とて本名也	論(ろん) 古
連(き)	之(の)	火性(ぶらでうちんの)	手(で)
天(て)	小(こ)	坂(さか)	長(ちやう)

向異ノ縁同の言語皆異同ス
ごふうとう振
紳士遠馬呵嘘
州の廣法
亞喇弁須の詞
おりんも
ひゞかうへし

ウ ヨ カ タ ツ シ

ヱ イ ン ザ ン ナ

陳(ちん) の	鬼(き)	能(の)	土性(ちくぜんの)
赤(わう)	江(え)	弥(や)	権(ごん)
理(り)	身(て)	美(み)	米(べい)
綸(ろ)	安(あん)	男麻(おひまぎ)	稀(さらね)

おつれもうしな　ごゝんよう
おまはんぜゝうがねうよ　おきやくダヨ
わたやいやきいはふざの

ゴ　ゼウザシツ　オカミンス
バカラシイキリキリシヤヨスカヨエブヨ
マタユレコレガキイシタトサウレシイノウ

詞

箕	鑫	流	王	鶯	丸	毒	乃
倭	金	来	敉	而	類	我	久。
加	荷	落	者	茂	仁	甫	加
受	浦	親茂油宇矢破	奈	尾	琴	自	良

枕言葉

雨ごろも　月ぐひづく
見ぐるま　見ぐせぶる
風ぐるま　月ぐるぶる
かげぐる　ちぐまる
ひくくまる
ゆるハそる　ちぐと
男　ちんぐん
書　ぐまと
ぐく　ぐまぐる
ぐく　ぐまぐ
ぐく　ぐまと
ぐく　ぐまと

負　矢　郁　陳天津　迎茶元

伍　猿　備　酒　毛　夢　柴性　仲　射　時　話

子供　ぐる
下女　ぐまぐ
きつと　かんぐる
客　きんちゃく
女帝　やん
女帝買　やん
げい者　くちゃ
永　うゝし
芝居　ちんぐる
けんか　さく男
海ろ　ぐまぐ
ぐる　ぐまぐ
ぐる　ぐまぐ

元　瀬　那　不　社　教　世　園　名　仇　浪　陀　雅　深　草　恵

汚

永 永徳 亭 湖

玄 鶴 薫 屋

呑

稀有化原 異 新 吳 名 尽

陳地地地地而。
郡天地。
貞元津須。

名字尽

七

上江傳七

円

横江傳丹

横くぢ丹の字
横くぢ丹の字

十

竪横十太

平 平 平 平

右 右 右 右

一 二 三 四 五 六

七 八 九 十 百 千

佐 命

手　あんま
足　そくそく
笑わらひ　せうわらひ
見みる　つあぐ
大きなる　やうくは
小さい　てさい
わかい　○じやくねん
閑　かのえや
飯　○さうさく
食ふ　○ふうそ
汁　のせる
たこ　おんどい
猪のもの　しのさ
伏猪　六年ゆのさ
ころし　おしつけう
鉄　○しんちう
小判　大げん
小つぶ　小ばん
勇猿　しろ
代物　わくどい
二面より　ごりま
鯉を　たらう
たぬき　まごさむ
ゆめみ　まごさ
寝る　せうぶ
たぬん　やつさん
湯屋　浄るり
紫陸　ゆひまう

分八十八　よねまつ　やそくろう

白白白白　こしろ　さんぞく

良良良良良　りやう五郎　りやうご五郎

七八五十六　あかやか　いそろく

山之丞　山の下に之丞がそんぜん　山下半之丞

国三　国の字が一つあつて一の字がひとつ　坂田一三六

林六　小さい林に大きな六の字　小林大六

皆坂逆右衛門　ことさかさまにさかさる

百白　ひとよさくらも　つくも

四井　よつさくら　十あい

十五三祝　あかうろふ　いわひ

廿郎　よこくろ見るとが廿の字よこくろうしうとうろうみの十の字なさ　横木仁十郎

口　田の字の中に十のじがあいて口の字になる　田口十内

五郎妻　下に出る書があつく上の五郎がある　下妻上五郎

須賀　須賀をど横にかい多くに見てしらく　揖須賀短兵衛

山左衛門　やくかたあかいるさんぞ　長山長左衛門

妄書かなづかひ

わる　ぶいえん
いきぬ　きろい
よさ　くろい
うそ　よきわく
やぼ　せうと
大便　せうを
小便　きぶせうを
げやく　くちぐちにまうと
あいつ　ぜにあり
あのよ　あぐく
面白くない　きかわくえ
茶　きぶさう
火　うんてう
友だち　そうじゆく
粘着　せわ
[illegible]の

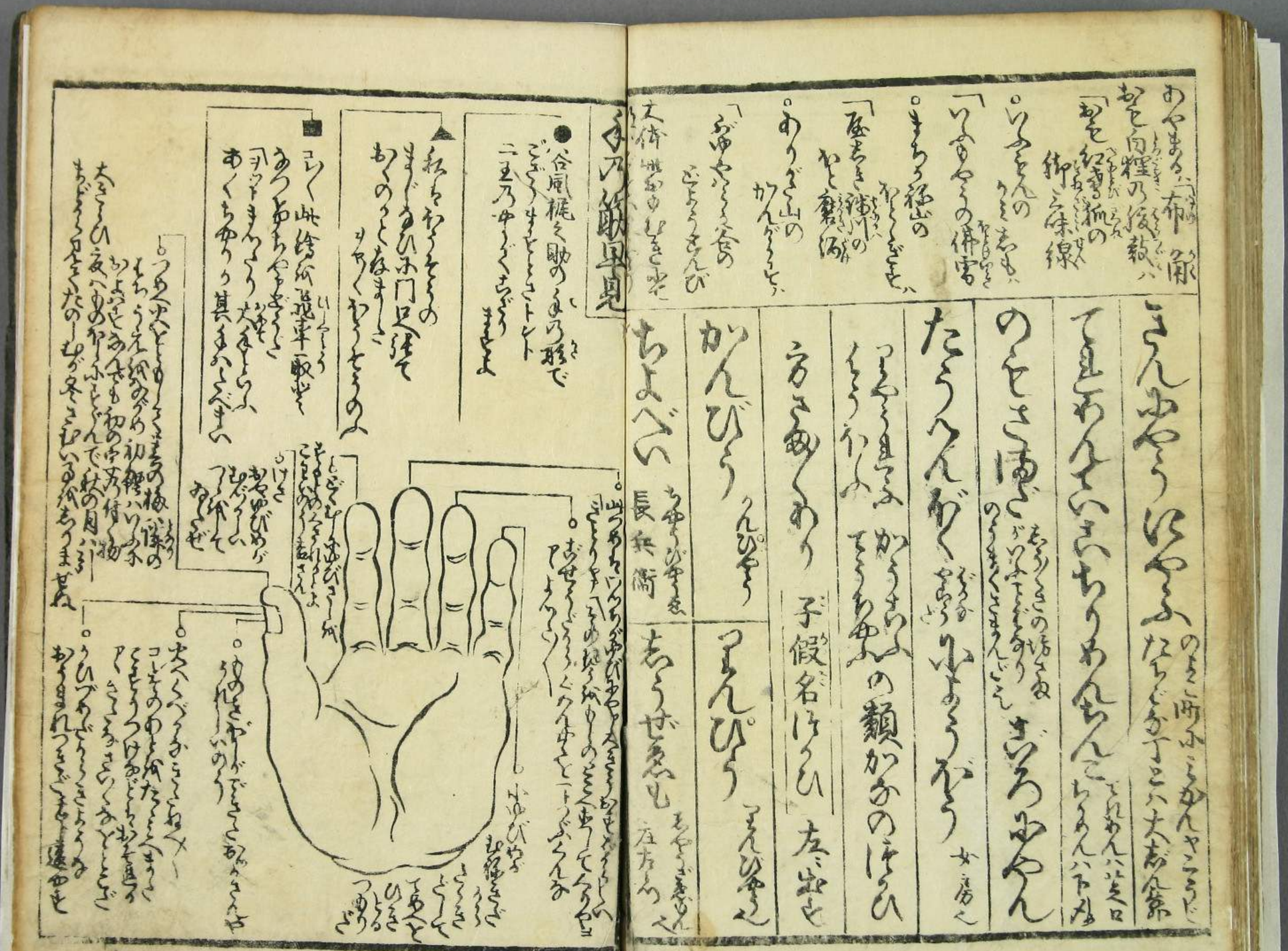
みやわふう　猫のおうきと
こうやわう　通人のきゃれる
ちやわふう　[illegible]
こんねむ　[illegible]
くうんかん　大きなつる云
ちよんねむ　芝居のひやうしまく
ふうむざう　ぶたの声
おまえん　女中の詞
きんぺらぼう　[illegible]
かんてうらい　[illegible]
きえんく　[illegible]
のくくう　中村の[illegible]

一

あんきやう　[illegible]
ちやんちやむ　[illegible]
こんわう　[illegible]
らうろうら　ふえ
どんちやん　[illegible]
どうたう　らうらう
わんぼむく　けいあを
つまうりよ　けんの
ふうたきい　[illegible]
かうきらよ　[illegible]
ゆうまよ　[illegible]
さうきよ　[illegible]
がんぐわん　[illegible]
きやせう　けんひ[illegible]
ゆやう猫よ　[illegible]
ごんちや　わごく

右の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

流行ことば詞
ひよし　[illegible]
[illegible]　續　[illegible]


さんしやうはやふ
てはやんとい
のとさほど
たうへんぼく
かんびやう
ちよべい
長兵衛
ぎろめん
女房
子假名ひら
左
右

どういふをんごん痕紋圖說

紋一	紋廿四	紋小
		深

貴房微小紋家根枝刺山椒乃紋ハ[illegible]
ゆう。時ハ流行[illegible]かゝるゆゑ小紋性とい紋
ハ吉。此紋消ゆれ[illegible]東京先祖[illegible]異國紋
大さわゆう吉。俳句乃紋。明後日少く紋注[illegible]べし。

惣嫁夜發計君之君ハ[illegible]ア紋[illegible]
さん稼ゆゑ十ゑ。夜[illegible]ゆゑ[illegible]紋と
いう。晴雪で[illegible]大き吉。此紋向く[illegible]
嬉欲とゆゑ[illegible]ハ[illegible]紋[illegible]。

[illegible]永通[illegible]。青[illegible]病乳[illegible]方。[illegible]物びく。青[illegible]
[illegible]大郎。[illegible]同[illegible]多くゆう。[illegible]東[illegible]通[illegible]
一紋[illegible]云一文の[illegible]中の町で[illegible]。[illegible]紋ゆう。一文の泉紋
清川で[illegible]武[illegible]ゆう。一紋[illegible]べ[illegible]て[illegible]人[illegible]紋[illegible]大吉

大紋

大門ばかり揚屋へ。あれいさこ。昼ち男衆。お駒様。ご覧じさるゝ。ちょくぞ。客と女郎も連紋ばかりまぜんば。手ふ終身と。湯つべ。大紋出れば家とおゆひ。大紋入れば紋湯。大紋の。お駕ごと。去大紋の。侍大悪

於花三紋

御花二文小林の朝比奈。ふらふら地ひみわゝど。チト小早乃胴。あひ。昼ひ。おれ三紋とよぶ。ちろり紀乃お茶湯つゝく。神仏と信じく去。又お花荒神松。此藤。みかゝよる。ほ女みわり

御印紋

御印文。あひ。百紋しい。釈門。みかゝよる人おのづゝ。懐より。百紋出れば。山。御印文出る。昼ちお昼ひ。前しいつ。百同百紋。あゝ。後生安楽。清ちいゝ。未だ去光。如来紋信じべ

訛紋

仏ち。仏体紋。証紋。ちゝ。金物。くゝ。ゝ。ゝ。

○下司のてのハ弱くさぶると尾蓋あぐ〜紅門ぐ 抽紋 終

人相小鑑

福相

人位同じくして人乃面の如し顔とくらべ。人相ろ人位あるもの面をひ面を位あるとて大金位傾くとて大づ。今位傾くて位づ。傾く時の地為相逐て時乃圖驚相。ちくんさ時ちて中の相あり。拾て相ありて。女ちも相ちて夫ちく相めてんぐ

人相圖論

一、厚二威三、四、古五、孤六、薄七、惡八、俗ちて呈位八相ちる。男女ちを小此大概ちとちて右ちしの如く主ちのさちハ四相ち。義強文相ちてくちくハ相ちの名也。

やうまー相

吝相

獄を之相

と世の武張八相
とびくいさつふ
出せる家ゝ四相
と煙巻くて十二
相ふわくとピント
四相だろみくるゆ
ゆわくどや。
同醫ゞ抹香臭
かりくるか面と
ちぶ相べ結ぶく
さる紙法相ふ
ふくさる紙姫
相。ふくさる

氣ゞ短相

おとゝ相

ぬく相

手ゞ結ぶ相

うまみ相

まくど相

貧ー相

不足相

ふくさる紙
ね。ふくさる紙
のどとぐびりく
まるぐひとゞ相
。むゝゆゝ水わら
とくゝゝ高く
ゝまゝゝあんぐ大相
。初鄙紙仔巻や
で食ゝ面ハさう
う辟れ。天蓋紙
うぶくくくのぐ
虛ず相むせふ
ちやゝやとぐ巻
ね。むくくくも

うちぐるまの八おとす相。扇形いろ
ら〳〵ふくらむ。むら
さきひお。初〳〵
びろうとあつてうす
容の紅を物〳〵れ
さ相。女乃ま代
ひいくちゐんとを
まゝ〳〵面ゞのろ
相。女房ホ天窓
のあぐぬ直ぐ点ハ
のびさ相。陰嚢の
位長ど野相。いを
ホ馬ゆうの相用

七変同ぎ
いつくこ三馬
ゆかの紅
目の野変
ありう
園十郎
逆ゑ
ゆき眼
女家
いつきよ
ちを主眼
笑ひ眼
好相。の
食ふ相ご吞ふ
おごそふ相を
りふ相と。ひ
用ゐあまぶ迫用
らあふ。山相
ふふ。初ふ
時を賣ト先生
変易のつ号遠
あふも不思議
あふぬ。八卦そ
んちゆぬ。
卦交の表ふやえ
ぐ中用
いを用
きもつぶり眼
女の目
悪眼
面部乃圖 附註解
人間百変善悪邪正眼鼻
耳口うち出入も。目ゆ諸乃兆候
見ふく知ふ此頃乃不吉合ふ見ハ
ど。鼻ホ諸乃白ゆ鱗ふ知ふ亀
ふ乃表ゆ。耳ホ諸の世ゆ
ゆふふ知ふ。ふ乃不吉兆ハ
口ゆ諸乃味と合ふ知ふいろ
くのおふゆふ。さ辺バ
耳と眼ふ鼻ゆ付ふ口切者乃
目口のふを。舌を災乃根ゆる
正ゆ。目ふ鼻ふ枝ゆる
耳孚目乃利口ゆを。只ゆ禍
乃門ゆふと。ふ口ゆ實ホ
目口鼻ゆあふい我。亀ゆ深ふ
番ホ解ふ目口鼻の除と。ハ
耳の揚ま。ハの裂ゆ妖魔ハ
ぐ。ハ鼻天眼揚ゆ

大師さまの御面
よりも速やかに
ゆ雲は夜の秋忙
あるべし

平生よく言語

○かんあんもあの
せんたくぐ
○うそ紙つきぐの
○おそれいりやの
きしめんぐん
○おそれ入山ぐ
○きわうてきらいや
のらりぐえん
○のうきぐのひりぐん
○いくべぐくとあう
○おとろかんあん
まうこ紙ぐうさ
○きぐのあの去ぜぐじ
○ちう後の者ぐまう
○つれかいの舌を出
○辛紙のぐ大根
ちうくのうる
○去間間れバこかい
うまう後く
○かんぐの八所ぐり
○おまえ一面までらや
九十九まで
○めやまくのまてら
○大笑ちんくわぐど

白猿 鼻の大小 ○あや出ぐうこと云

天狗 ○と年ハ人ぐくなれ行ぐきおもおれぐ

耳

行ぐくあきのくち

馬鼻 ○うんぐんこうぐ

福耳 ○ぐもてこくしてんぐのようぐ

笑ふ口

きまりの口

獅子鼻 ○此鼻ハ俗

子耳 ○こくんぐ人一生行くものさ

ぐそぐうく口

おぐらの口

唐鼻 ○あのぐ

籠耳 ○ものぐ子かんぐ紙

おまんまの口

あやぐ口

諸流小話

一流毎ふうくせあるゆえ
ふのうちゆうくうんぐし

高砂

「ふうあれうふ
ひろい波辺ぐふくぷふとおさ
原ぐ紙おうさねうよみれや。
松ちもわぐこうう者是げあやうぐてとおと
をひううやかうよふさある所こくゆうあうこと
乃わぐこぐちうぐこた
「モ」せあのどのうあうちの者 鶴亀

○ふさぎのもーや
あっがって
○大ちぐいたっーれ
○ぐーやでかぐらやぐ
ちっーやぐぐ
○あぐぶでぐぎれね
○がんぶくちぐぶふ
ぎぐーって
○ぐっいすんぐ
ふっーくしの門ぐ
○たおさのさんぐる
ハでっーおさ
○ちっーくっおあのお
○やっまっくハやっりん
っぐ且

○うんぐっーっるの紙
ぼっっぐせ
○ちっーぬ紙のまっ場
○おやっーぐーせっ
っぐちやのぐ名ちる
○ちぎのっーぐ紙ぬる
○ちっぐのぐーっまの
ちんの下
○おまんのぐ山り八ぼむ
○さっさってっふ
ぎせちぎっあぐ
右地ひまぐ山ふ記
しっっる山ぐ口紙
さっくんっ場ぐち
ぐぎ名ひんぐ大体
とちっふ出ち特紙

モくぎ乃ゆぐっぐあんぐとるお金後乃ぐのう。
ゆんぎぐぐ。ちっきてのいとぐのっんっくのこぎそで
ちやんっさいけやっさ。げっめのゆけちーさぶちらけ
て。山乃ちんっさき池ちっこふっつっとるもーんも
向るも伝でも鼎でを。本一帯ふもんぐっそで。
お正月乃食摘さんっんっ本っで。モまわっ
ぎんぐ綿ぐや後ぐあんぐらけぐぶ。ちっぎを。
ぐ且ぐんぐのもよっっるゆぐやっぐぐん後ぐ出服

さっ乃ちやぐっくっさ。ありかっくちんぐ。
侠客乃養老
ぎぐれめっ代ちぐとおっ。まっく後ぬん
乃かっぐ中ゃ系ふあっぐいっつっふ書本
の書の字ちっっっるんのもぐ。ぐっさ後く
っぐっっっ中ゃ中っくちあんとっちぐっ中と
吐の作生活
ちっちっ乃ちっっっちんっちぐぎの

[illegible]

面の圖

外面　如菩薩

内心　如夜叉

五加　山姥　大鼻　同

[illegible]

○是より遠く酒宴看経

不工面

能工面

[illegible]

面乃夏						
夢我が對面。路考が浚面。境が二面。年代記が	佃亭が[illegible]でおせば汲がきりでろがさぬく	まんちゃづんでちょとあつちゃ冷ち[illegible]く	あてかすさ紀の中よりよ月がさゆれでたえ[illegible]ど	猫ちゃくとおやまとぐちあづみのゆさでくるめ[illegible]く	やでさくの若松が枝を業て事ちあげるかりでくゃく	

ざ　は　ぞ　ま　そ

ざ　は　ぞ　ま　そ

ざ　は　ぞ　ま　そ

月乃異名

▲同月の名より〳〵
●あんかうとかれ
おんなかうとかれ
▲正月●明杢
▲二月●初午
▲三月●雛様
▲四月●誕生
▲五月●幟で
▲六月●天王
▲七月●七夕
▲八月●月見で
▲九月●菊見ぬ
▲十月●夷講
▲霜月●顔見世
▲極月●歯番

游戲堂 式亭三馬著

拍案駭奇 英雄羅譚 三馬作 北斎画

○南総里見八犬伝の世界物語ハ山中氏の英士四本氏者修りの寿説なるゝ事を後人の考へ

維時文化第三稔丙寅春王正月

發客 本所相生町壹丁目 紙屋利助板